

はじめに

現在、全国的に医師が不足するなか、本市においても、軽症のこどもの患者さんが、夜間など時間外に多く受診される傾向にあることから、特に、小児救急病院などの医療機関に負担がかかり、医療体制の維持が困難な状況になっています。

こうしたことから、準夜帯（午後5時～午後10時）における小児救急病院への患者さんの集中を緩和するため、4月1日から小児科の先生方のご協力で夜間当番医を開始いたしました。

また、深夜につきましても大分大学医学部小児科の先生方や関係医療機関の先生方のご協力によりお子さんの急な発熱など緊急やむを得ない症状に対応できるような、医療体制としたところでございます。

しかしながら、このような小児科の医療体制を持続させるためには、市民の皆様にも、通常の診療時間内での受診を心がけていただき、緊急やむを得ない場合を除き、時間外の診療を控えていただくことへのご理解とご協力をいただきたいと思います。

このたび、こどもの事故や発熱、嘔吐などのよくある症状ごとに、観察のポイントや家庭での対応を分かりやすくまとめた「小児救急ハンドブック」を作成いたしましたので、1家庭に1冊お持ちいただき緊急の際にご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、お忙しいなか、本ハンドブック作成にご協力いただきました大分県医師会・大分県小児科医会の先生方に感謝申し上げますとともに、市民の皆様におかれましては今後とも小児救急医療に対しましてご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成22年4月

大分市長 釘 宮 磐